

専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導担当資格の有無	無	
スポーツ科学部	助教	岡村修平			
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日 (期間)	概要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
2 作成した教科書、教材、参考書					
体力トレーニング論・同実習「実習ノート」		令和4年4月1日～現在に至る	「体力トレーニング論・同実習」を補助する内容を記載しており、学生の授業理解を深める取り組みをしている。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書 (単著)					
書名	著者	総頁数	発行所	発行地	発行年月
著書 (共著・分担執筆)					
題目/書名	著者/編者	初 (始) 頁～終頁	発行所	発行地	発行年月
続・私の考えるコーチング論：新米指導者としての立場から	岡村修平	107頁～110頁	コーチング学研究第37巻増刊号		令和6年1月
テニスの女子ダブルスにおける地方学生選手の課題を探るためのゲームパフォーマンス分析	高橋仁大, 中村和樹, ◎岡村修平, 大澤啓亮, 柏木涼吾, 村上俊祐.	1頁～9頁	スポーツパフォーマンス研究16巻		令和5年11月
テニスのリターンにおけるスピード及び回転数：ATP チャレンジャートーナメントに出場したプロテニス選手を対象として.	柏木涼吾, 村上俊祐, ◎岡村修平, 大澤啓亮, 中村和樹, 高橋仁大	366頁～367頁	スポーツパフォーマンス研究15巻		令和5年9月
The relationship between technique and score in tennis doubles –a study of male and female collegiate tennis players.◎Shuhei Okamura, Koki Numata, Ryogo Kashiwagi. /13th World Congress of Performance Analysis of Sport and 13th International Symposium on Computer Science in Sport. IACSS&ISPAS 2022. Advances in Intelligent Systems and Computing, 1448.	Arnold Baca and Juliana Exel	分担執筆, 117頁～120頁	Springer Nature Switzerland	Cham, Switzerland	令和5年7月
Game-Performance-Analysis of High School Tennis Players with Low Competitive Performance. Ryogo Kashiwagi, Shunsuke, Murakami, Shinya Iwanaga, Koki Numata, ◎Shuhei Okamura, and Hiroo Takahashi. /13th World Congress of Performance Analysis of Sport and 13th International Symposium on Computer Science in Sport. IACSS&ISPAS 2022. Advances in Intelligent Systems and Computing, 1448.	Arnold Baca and Juliana Exel	分担執筆, 151頁～154頁	Springer Nature Switzerland	Cham, Switzerland	令和5年7月
大学女子テニス選手を対象としたサービスのパフォーマンス向上の取り組み事例	共著/高橋仁大, 柏木涼吾, ◎岡村修平, 大澤啓亮, 村上俊祐	267頁～276頁	スポーツパフォーマンス研究第14巻		令和4年11月
テニスのゲームにおいてプロテニス選手がサービスのスピード及び回転数を変化させる要因	共著/柏木涼吾, 村上俊祐, ◎岡村修平, 沼田薫樹, 高橋仁大	13頁～24頁	テニスの科学第31巻		令和4年11月
The differences in the ball speed and the spin rate depending on the results of a tennis serve	共著/Ryogo Kashiwagi, ◎Shuhei Okamura, Shinya Iwanaga, Shunsuke, Murakami, Koki Numata, Hiroo Takahashi.	67頁～71頁	Malaysian Journal of Movement, Health and Exercises, 10(1)		令和3年1月
日本男子トップテニス選手のグラウンドストロークにおける打球データの分析-練習マッチにおける2選手の特徴-	共著/村上俊祐, 北村哲, 佐藤文平, ◎岡村修平, 柏木涼吾, 前田明, 高橋仁大.	753頁～765頁	スポーツパフォーマンス研究第12巻		令和2年11月
テニスにおけるハードコートでのスライドフットワークが繰り返し時間に及ぼす影響	共著/柏木涼吾, 高橋仁大, 村上俊祐, ◎岡村修平, 野村慧介, 前田明.	46頁～56頁	スポーツパフォーマンス研究第12巻		令和2年2月

Ball Data Analysis of Ground strokes by Professional Male Tennis Players -Focus on the Difference in Ball Placement and Position-, Shunsuke, Murakami, Ryogo Kashiwagi, ©Shuhei Okamura, Hiroo Takahashi. / Science and Racket Sports VI	Miran Kondric, David Cabello Manrique, Metta Pinthong	分担執筆, 52頁～58頁	Samba tisk	Bangkok, Kuala Lumpur, Singapore	令和元年9月
The Ball Speed and The Ball Spin Created by Ground Stroke During the Rallies in an Actual Tennis Match, Ryogo Kashiwagi, ©Shuhei Okamura, Shunsuke, Murakami, Hiroo Takahashi./ Science and Racket Sports VI	Miran Kondric, David Cabello Manrique, Metta Pinthong	分担執筆, 65頁～69頁	Samba tisk	Bangkok, Kuala Lumpur, Singapore	令和元年9月
Relationship Between Racket Swing and Ball Movement in Tennis Forehand Stroke - Experimental Study by Two Participants-, ©Shuhei Okamura, Ryogo Kashiwagi, Shunsuke, Murakami, Hiroo Takahashi./ Science and Racket Sports VI	Miran Kondric, David Cabello Manrique, Metta Pinthong	分担執筆, 78頁～82頁	Samba tisk	Bangkok, Kuala Lumpur, Singapore	令和元年9月
The Relationship Between the Ball Speed and the Ball Spin Rate of Serves in Collegiate Male Tennis Players, Hiroo Takahashi, Ryogo Kashiwagi, ©Shuhei Okamura, Shunsuke, Murakami./ Science and Racket Sports VI	Miran Kondric, David Cabello Manrique, Metta Pinthong	分担執筆, 110頁～115頁	Samba tisk	Bangkok, Kuala Lumpur, Singapore	令和元年9月
テニスにおけるサービス時のゲーム展開の予測が苦手コースのサービスパフォーマンスに与える影響.	共著/©岡村修平, 高橋仁大, 小笠原希将, 村上俊祐, 柏木涼吾, 野村慧介, 中本浩暉.	275頁～288頁	スポーツパフォーマンス研究第11巻		平成31年5月
バスケットボールにおけるオフェンスリバウンド参加人数に関する研究.	共著/野村慧介, 高橋仁大, 三浦健, 片桐章光, ©岡村修平, 柏木涼吾, 木場一総.	188頁～197頁	スポーツパフォーマンス研究第10巻		平成30年8月

原著論文（審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録等は含めない。）

題名	著者	誌名	巻	初（始）頁～終頁	発行年月
テニスにおける1st サービスのスピード及び回転数とポイント取得率の関係 — サービスコースに着目して—	柏木涼吾, 村上俊祐, ©岡村修平, 沼田薫樹, 岩永信哉, 高橋仁大.	九州体育・スポーツ学研究	36(2)	1頁～11頁	令和4年2月

総説

題名	著者	誌名	巻	初（始）頁～終頁	発行年月
Performance analysis in tennis since 2000: A systematic review focused on the methods of data collection.	Hiroo Takahashi, ©Shuhei Okamura and Shunsuke Murakami.	International Journal of Racket Sports Science	4(2)	40-55	令和5年2月

その他（「症例報告」、「実践報告」、「研究ノート」等区分を記入）

区分	題名	著者	誌名	巻	初（始）頁～終頁	発行年月

学会発表（「国際学会」、「国内学会（一般演題、シンポジウム、課題研究、講演等）」、「研究会」等区分を記入）

区分	年月	学会名	演題名	場所	発表者名
国内（一般演題）	令和6年3月	日本コーチング学会第35回学会大会	テニス・ダブルスの重要なカウントにおける技術様相に関する研究—トーナメントのラウンドに着目して—	朝日大学・岐阜	©岡村修平, 村上俊祐, 高橋仁大
国内（一般演題）	令和5年12月	第35回テニス学会	テニス競技のゲームパフォーマンスを構造化する試み	大同大学・愛知	村上俊祐, 田代翔, 中村和樹, 大澤啓亮, ©岡村修平, 高橋仁大
国内（一般演題）	令和5年2月	日本コーチング学会第34回学会大会	テニスの女子ダブルスにおけるゲーム様相に関する研究 —最終ショットに着目して—	日本体育大学・東京	高橋仁大, ©岡村修平, 大澤啓亮, 村上俊祐
国内（一般演題）	令和4年10月	第34回テニス学会	テニス・女子ダブルスのゲームパフォーマンス分析	北翔大学・北海道	高橋仁大, ©岡村修平, 大澤啓亮, 村上俊祐
国内（一般演題）	令和4年10月	第34回テニス学会	模擬ゲーム中の打球データに基づく学生選手の課題の設定	北翔大学・北海道	村上俊祐, 大澤啓亮, ©岡村修平, 北村哲, 高橋仁大
国際	令和4年9月	13th World Congress of Performance Analysis of Sport 2022 & 13th International Symposium on Computer Science in Sport 2022	The Relationship between Technique and Score in Tennis Doubles -A Study of Male and Female Collegiate Tennis Players.	ビデオ発表（オーストラリア・ウィーン）	©Shuhei Okamura, Koki Numata and Ryogo Kashiwagi□

国内(一般演題)	令和4年7月	第8回日本スポーツパフォーマンス学会大会	テニスにおけるゲームパフォーマンス分析を活用したコーチングの実践—競技力の低い高校生テニス選手を対象として—	東京ビッグサイト・東京	柏木涼吾, 村上俊祐, 沼田薫樹, ◎岡村修平, 高橋仁大
国内(一般演題)	令和4年3月	第33回日本コーチング学会	テニスのダブルスにおいて用いられる技術とカウントの関係 —男女大学テニス選手を対象として—	オンライン(鹿屋体育大学・鹿児島)	◎岡村修平, 宮地弘太郎, 梅林薫
国内(一般演題)	令和2年12月	第6回日本スポーツパフォーマンス学会大会	ジュニア期以降に競技力を向上させた男子大学テニス選手の事例的研究—ネットプレーに着目して—	オンライン	◎岡村修平, 村上俊祐, 沼田薫樹, 柏木涼吾, 岩永信哉, 高橋仁大
国内(一般演題)	令和2年9月	第69回九州・体育スポーツ学会大会	ジュニア期以降に競技力を向上させた男子大学テニス選手の事例的研究—大学1, 2年次に着目して—	オンライン	◎岡村修平, 岩永信哉, 沼田薫樹, 高橋仁大
国際	平成30年9月	VII World Congress of Performance Analysis of Sport	Comparing Ball Speed and Ball Spin of Tennis Serve Between Game Situation and Practice in Collegiate Male Tennis Players.	クロアチア・オパティア	Hiroo Takahashi, ◎Shuhei Okamura, Ryogo Kashiwagi, Koki Numata, Shunsuke, Murakami.
国際	平成30年7月	6th World Congress of Racket Science	Racket Swing and Ball Movement in Tennis Forehand Stroke -Experimental Study by Two Participants-	タイ・バンコク	◎Shuhei Okamura, Ryogo Kashiwagi, Shunsuke, Murakami, Hiroo Takahashi.
国際	平成30年7月	6th World Congress of Racket Science	Ball Data Analysis of Ground strokes by Professional Male Tennis Players - Focus on the Difference in Ball Placement and Position-	タイ・バンコク	Shunsuke, Murakami, Ryogo Kashiwagi, ◎Shuhei Okamura, Hiroo Takahashi.
国際	平成30年7月	6th World Congress of Racket Science	The Ball Speed and The Ball Spin Created by Ground Stroke During the Rallies in an Actual Tennis Match	タイ・バンコク	Ryogo Kashiwagi, Shuhei Okamura, Shunsuke, Murakami, Hiroo Takahashi.
国際	平成30年7月	6th World Congress of Racket Science	The Relationship Between the Ball Speed and the Ball Spin Rate of Serves in Collegiate Male Tennis Players	タイ・バンコク	Hiroo Takahashi, Ryogo Kashiwagi, ◎Shuhei Okamura, Shunsuke, Murakami.
国内(一般演題)	平成30年6月	第30回テニス学会	テニスにおけるフォアハンドストロークのラケットのスイングとボールの速度・回転数の関係—ボールマシンを用いた複数の参加者による実験から—	専修大学・東京	◎岡村修平, 柏木涼吾, 村上俊祐, 高橋仁大
国内(一般演題)	平成30年6月	第30回テニス学会	テニスのゲームにおけるグラウンドストロークのボールの速度及び回転数—トーナメントにおける実践での打球を対象に—	専修大学・東京	柏木涼吾, 岡村修平, 村上俊祐, 高橋仁大
国内(一般演題)	平成30年6月	第30回テニス学会	日本トップテニス選手のグラウンドストロークにおける打球データ分析	専修大学・東京	村上俊祐, ◎岡村修平, 柏木涼吾, 北村哲, 高橋仁大
国内(一般演題)	平成29年12月	第29回テニス学会	テニスにおけるフォアハンドストロークのラケットのスイングとボールの速度・回転数の関係	慶應義塾大学・東京	◎岡村修平, 柏木涼吾, 村上俊祐, 高橋仁大
国内(一般演題)	平成29年12月	第29回テニス学会	テニスのゲームにおけるグラウンドストロークのボールの速度及び回転数の関係	慶應義塾大学・東京	柏木涼吾, ◎岡村修平, 村上俊祐, 高橋仁大
国際	平成29年10月	2nd Asia-Pacific Conference of Performance Analysis of Sport	Relationship Between Rac- ket Swing and Ball Movement in Tennis Forehand Stroke	マレーシア・クダ州	◎Shuhei Okamura, Ryogo Kashiwagi, Shunsuke, Murakami, Hiroo Takahashi.
国際	平成29年10月	2nd Asia-Pacific Conference of Performance Analysis of Sport	Comparison of Forehand Strokes in Collegiate Male Tennis Players Between on Game Situation and on Experimental Situation -The Evaluation Based on the Relationship Between Ball Speed and Ball Spin Rates-	マレーシア・クダ州	Shunsuke, Murakami, Ryogo Kashiwagi, ◎Shuhei Okamura, Hiroo Takahashi.
国際	平成29年10月	2nd Asia-Pacific Conference of Performance Analysis of Sport	Ball Speed and Ball Spin of Groundstrokes in an Actual Tennis Match	マレーシア・クダ州	Ryogo Kashiwagi, ◎Shuhei Okamura, Shunsuke, Murakami, Hiroo Takahashi.
国際	平成29年10月	2nd Asia-Pacific Conference of Performance Analysis of Sport	Analyzing Ball Speed and Ball Spin of Tennis Serve with Trackman Tennis Radar	マレーシア・クダ州	Hiroo Takahashi, Ryogo Kashiwagi, ◎Shuhei Okamura, Shunsuke, Murakami.
科学研究費等の取得状況					
科学研究費／その他の助成金／外部資金					
区分	種類	題目	代表・分担の別	期間	助成額(期間内の総額)
特許					

特許名称	発明者／出願人	出願日／出願番号	公開番号	取得した場合 →	公告・特許番号	国
Ⅲ 加入学会および社会における活動						
期 間	内 容					
加入学会						
平成29年～現在	日本テニス学会会員 運営委員					
平成29年～現在	日本スポーツパフォーマンス学会会員					
令和2年～現在	九州体育・スポーツ学会会員					
令和3年～現在	日本コーチング学会会員					
社会的活動						
Ⅳ 管理活動						
期 間	内 容					
委員会活動						
令和4年～現在	大阪府テニス協会指導者委員会委員					
令和5年～現在	関西テニス協会強化委員会委員					
特別プロジェクト活動						
Ⅴ クラブ活動の指導業績						
1. 指導クラブ名	女子テニス 部		2. 役職	2021～ 監督	3. 部員数	20 人
4. 現場指導の頻度	① ① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない					
5. 合宿指導	年間合宿回数： 2 回		延べ日数： 14 日			
6. クラブの競技力向上への取り組み	① ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない					
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	② ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない					
8. 部員の就職指導への取り組み	② ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない					
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期 間	場 所		
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)						
開催期間	大会名		成 績	場 所		
Ⅵ 賞罰 (職務に関する賞罰)						
年 月	受賞等機関名	内 容			備 考	